

国際感覚あふれる人を育てる

国際化推進ビジョン

平成 26 年 5 月

平成 28 年 1 月一部修正

令和 2 年 3 月一部修正

(一財) 遠野市教育文化振興財団

I 国際化推進ビジョンの目的

当財団は、教育文化事業、国際交流事業、生涯学習事業、芸術振興事業及び文化研究事業を通じて、「心豊かで夢をもち、郷土を愛する人を育てる」ことを基本理念に掲げています。国際化推進ビジョンは、国際感覚あふれる人づくりのため、国際交流分野における財団の考え方や姿勢をまとめて示したものです。

なお、具体的な計画期間は定めずに、必要に応じて柔軟に修正していきます。

II 国際交流のあり方と実現のための事業

財団が考える当市の国際交流については大きく2項目とし、各々実現のための事業を整理してまとめました。

- 項目1 外国との相互交流を目指して
- 項目2 外国人にやさしいまちを目指して

なお、事業はアイデア（案）段階のものもありますが、今後様々検討して実現可能なものに取り組んでいきます。

たのしく
のんびり
しっかり
むりせず

1 外国との相互交流を目指して

キーワード：楽しむ

遠野市が外国と交流することにより、①『遠野物語』を世界に発信する機会となり、外国人観光客の増につながることで、②異文化体験をすることにより国際感覚あふれる人づくりに寄与することが期待できます。

効果的に事業を実施するために

遠野市や関係機関と有機的な連携により、国際交流を効果的に実施するため、平成30年9月に遠野市姉妹都市等交流事業実行委員会の一員になりました。

今後、様々な外国との交流も想定されますが、基本的には市の考え方に沿って、支援協力する姿勢としますが、財団のマンパワーや財源には限りがあるので、中高生海外派遣事業における旅費助成金以外の事業費については、市との折半を基本に対応することとします。

《参考》遠野市姉妹都市等交流事業実行委員会は、以下に掲げる団体で構成されている。

- ①遠野市、②一般財団法人遠野市教育文化振興財団、③岩手県立遠野高等学校、④岩手県立遠野緑峰高等学校、⑤遠野市立遠野中学校、⑥株式会社遠野テレビ、⑦遠野チャタヌーガ友好委員会、⑧トナーゼ

実現のための事業

1 中高生海外派遣事業

1-1 中学生海外派遣事業

平成11年からこれまで派遣された生徒は約200名。過去に行ったアンケート調査結果から、大きな効果や成果が認められる事業であることから、今後も継続してまいります。

《事業の概要》

①目的

次代を担う中学生の国際理解や国際交流への関心を高め、また、海外での異文化体験を通じてグローバルな視野と感覚を醸成させるとともに、自国「日本」や郷土「遠野」を考える機会とし、国際化に対応できる人材の育成を図るものとする。

②派遣先

- ・アメリカ合衆国・テネシー州チャタヌーガ市
- ・CSAS校・CSLA校

③派遣期間 通常1月（11泊13日）

④研修内容

ホームステイや学校での体験を通じて、アメリカの文化や歴史、生活習慣等について理解を深めるとともに、自分の意見をはっきり言える積極性を身につける。

ホームステイ、体験入学等 11日間

⑤派遣人数 生徒9名

1-2 高校生海外派遣事業

長らく中断していた高校生の派遣を、平成28年度から再開して実施しています。中学生派遣と同様、今後も継続してまいります。なお、受け入れ先との合意により、隔年実施としています。

《事業の概要》

①目的

次代を担う若者が、海外での異文化体験を通じてグローバルな視野と感性を醸成するとともに、日本や遠野を考える契機として国際理解や国際交流への関心を高め、国際化に対応することができる人材の育成に資することを目的とする。

また、先進的な現地企業の研修等により、生徒が具体的な将来像について幅広く考える機会とする。

②派遣先

- ・アメリカ合衆国・テネシー州チャタヌーガ市
- ・CSAS校
- ・大都市等

③派遣期間 通常1月（14泊16日）

④研修内容

ホームステイや学校での体験を通じて、アメリカの文化や歴史、生活習慣等について理解を深めるとともに、企業見学等によりグローバルな視点で将来像を描けるようになる研修内容とする。

ホームステイ、体験入学、大都市研修等 14日間

⑤派遣人数 生徒8名以内

2 姉妹都市等交流事業

2-1 イタリア・サレルノ市との交流

平成26年の姉妹都市締結30周年市民ツアーで現地を訪問した際の交流会では、「(距離的・文化的な壁を越えて) 30年続く偉大な友情! 経済ではなく文化と友情による絆、そして、これからもこの関係を継続(大事に)したい」旨の意見を双方で確認しておりますし、令和元年の35周年市民ツアーでは、さらにその思いを強くしたところです。今後は、10年ごとの節目の年を基準に計画的に交流を行います。

《事業の概要》

映画「遠野物語」が縁で姉妹都市になったイタリア・サレルノ市と文化やスポーツ等様々な交流を続けている。

昭和59年8月に姉妹都市締結調印以来、その都度、テーマをもって相互に交流し、これまで延べ350名の市民がサレルノを訪れ、サレルノからは140名が当市を訪れている。

2-2 アメリカ・チャタヌーガ市との交流

財団としては、今後も市等との連携協力により定期的に交流を進めていきます。

《事業の概要》

平成29年9月15日の遠野市とチャタヌーガ市との姉妹都市締結を機に市民レベルでの相互交流が再開した。姉妹都市締結時には、チャタヌーガ市から公式訪問団が来遠し、翌年11月には遠野市から公式訪問団が訪問して交流を深めている。

3 ドイツ・シュタイナウ市との交流(案)

《考え方》

遠野市は『遠野物語』で有名な日本のふるさととして国内外にPRしている。

『遠野物語』を世界に向けてアピールすることにより、遠野市に対する理解と関心が深まり、来遠者(外国人観光客)の増加につながる。このことにより市内を訪れる外国人との交流の機会が増え、市民の国際意識が高まることが期待できる。

従って、『遠野物語』の話者で日本のグリムと称される「佐々木喜善」とドイツのグリム兄弟との関係による交流を進めることについて、財団としては、市と連携協力する方向で進めていく。

4 台湾との交流

《考え方》

遠野生まれの伊能嘉矩は、台湾に渡り、10年間にわたって先住民族の調査・研究を行い、台湾人類学の先駆者として現在も国際的に高い評価を受けている。その地を実際に訪れ、市と文化交流協定を締結している国立台湾大学で伊能嘉矩に関する視察研修をしたり縁の場所を見学したりすることは、大変意義深いことである。市では文化交流のほかにも経済交流も視野に入れて施策を進めようとしており、財団としてもこれに協力する姿勢とする。

5 コーディネーターの活用

《考え方》

- ①外国との交流を円滑に行うためには、現地との連絡調整を担う者（コーディネーター）の役割が大きい。
- ②当市の現状は、次のようになっている。

コーディネーター	外国名
市職員	イタリア・サレルノ
財団職員	アメリカ・チャタヌーガ

○円滑な交流のためには、次の方法が考えられます。いずれも、一朝一夕には実現できませんが、市及び関係者と連携して進めていきます。

- ①コーディネーターを養成（育成）する。
→市又は財団職員を長期研修させることによって可能ですが、財源及び受け入れ先等の課題を解決する必要があります。
- ②現地に滞在している遠野出身者等の協力を得る。
→現在も適宜行っているため、より明確に位置付けしていきます。
- ③現地の方で、日本語が堪能の方の協力を得る。
→遠野市に長期間滞在してこちらの事情を良く理解している方、もしくは、交流を通じてそういう方を育てていくことも必要だと思います。

もくもくと
ていねいに
なんでも
スマイルで

2 外国人にやさしいまちを目指して

キーワード：もてなす

2020年開催の東京オリンピック、国際リニアコライダー（ILC）誘致活動、世界遺産の平泉（金色堂等）及び釜石（橋野高炉跡）、『遠野物語』、SL 銀河など日本や岩手そして遠野市を訪れる外国人観光客は、年々増加するものと予想されます。

当市に観光で訪れた外国人から「また訪れてみたいまち」と言ってもらえるように、市民が取り組むことにより、国際理解が深まり、外国人にやさしいまちになるものと考えます。笑顔で挨拶したり、気軽に道案内に応じたりして、英語に親しみ、外国人と接する機会になるものと思います。

また、社会的背景から、外国人市民が増加していることから、多文化共生社会の実現に向け、支援を行います。

実現のための事業

1 国際理解講座

《事業の概要》

普段なかなか知ることのできない世界の国々の文化を知ることにより、市民の国際理解を深めるために、定期的開催している。外国人等の講師陣が、現地の情報や知識をわかりやすく説明したり、実際にみんなで一緒に料理を作ったり、懇談しながら学ぶ講座で、参加者から好評を博している。

○参加者が固定化傾向にあるので、PRや内容等検討して参加者の増加に努めます。

○前述のコーディネーターを講師として、中高生に姉妹都市に関する出前講座を行い、姉妹都市に対する理解を深めるとともに、ファンの拡大に努めます。

2 外国人市民支援事業（生活文化教育支援）

《事業の概要》

財団は、日本語ボランティアグループ「ぽんご」と連携協力し、月2回の日本語教室の開催、日本・遠野文化の紹介イベント、生活講座等を実施し、外国人市民が安心して楽しく生活を送ることが出来るよう支援している。活動を通して日本人市民と交流の場を増やし、多文化共生社会を推進する。

○外国人市民が増加しており、今後も継続して実施します。

○市内には約200名の外国人がいることから、特に市内の企業等の理解と協力によりPRやニーズの把握に努めます。

3 キッズワールドクラブ

《事業の概要》

①目的

本格的に英語を学習する前の段階で、楽しく英語に触れることにより英語に対する抵抗感をなくす。また、外国人講師との交流を通し、異文化を理解する心を育む。

②対象（各コース定員 15 名）

キャンディーコース（幼児 年中～年長）

ジェリーコース（小学1年～2年生）

③内容

キャンディーコース（40分/回）：歌やダンス、本の読み聞かせなど

ジェリーコース（50分/回）：簡単な単語を用いたゲームなど

④開催日 6月～12月までの毎月1回 各コース7回×24コース

⑤講師 日本人講師2名、外国人講師（市内小中高ALT）

○これまで4コースだったクラスを令和元年度から2コースにして、低学年を対象に継続しています。参加幼児、児童数は横ばいですが、2020年からの小学校での英語教育の必修化もあることから、この事業は継続していきます。

○ただし、あくまで英語に興味をもたせることが狙いであることから、英語塾のように頻回に開催することは考えていません。

4 生涯学習講座の開催（おもてなし英会話等）

《事業の概要》

①観光地、観光ガイド、市民向けに超簡単カタカナ読み英会話（挨拶程度）教室等を開催し、外国人から道を尋ねられてもちょっとした対応ができるようにする。

②外国人の好印象が得られ、口コミにより来遠者の増が期待できるとともに、市民の外国人（英語）に対する苦手意識の解消につながるものとする。

5 国際交流フェスティバル（案）

《考え方》

①国際交流フェスティバルを市内で開催し、パネル展示やビデオまたは国際交流に市民等で携わっている方の講演等を通して、市民への啓もう普及を図り、国際化を推進する。

②市民の利便性を考え、年齢層を問わず多くの参加を促すため、市等のイベントに合わせ開催する。

6 ホームページの英語訳等

《考え方》

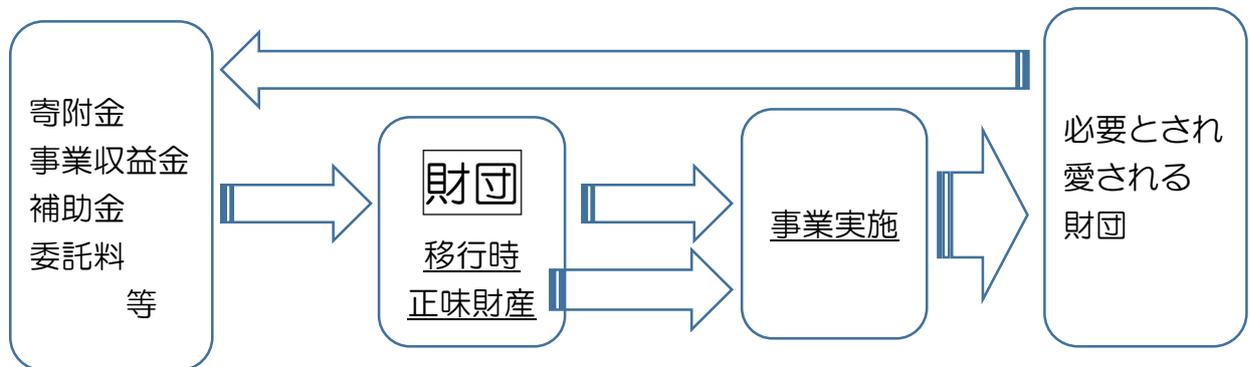
- ①当財団のHPの英訳化を行い、世界に情報を発信する。
- ②市内の主な観光地に施設内の簡単な説明を英訳したパンフや看板を作成する。

○①については実施済。適宜情報を更新しています。

○②については、市や関係団体と検討して進めます。

Ⅲ 効率的な事業実施

一般財団は、寄附金、事業収益金、補助金、委託料などにより財源を補給（確保）しつつ、移行時点の正味財産を公益目的事業に支出する必要があります。この好循環を保ちつつ効率的に財源を充当して種々事業の実施に努めます。



Ⅳ 国際感覚あふれる人づくり

当財団では、人づくりを次のように考え、これからも身の丈に合った事業を展開して、市民に愛され、必要とされる財団を目指します。

人は、体験や知識の習得を通して感動したり、興味をもったりした時に心が動き自ら行動する。体験や知識の習得は、きっかけや動機となる。

当財団は、まさにその「きっかけ」づくりのために様々な事業を行うことが「人づくり」につながるものと考えている。

